

報道発表資料の配付日時 2025年5月26日(月) 10時00分

# **手術支援ロボット「da Vinci（ダヴィンチ）SP（単孔式） サージカルシステム」による前立腺肥大症に対する 日本第1例目の手術を実施**

## **～前立腺肥大症治療の新しい選択肢が登場～**

### ＜概要＞

前立腺肥大症（BPH）の新しい手術として単孔式ロボット支援手術が登場しました。札幌医科大学附属病院（病院長 渡辺 敦）では、2024年10月に日本で第1例目の手術を行いました。

当院は現在も本手術が行える国内でも数少ない施設です（2024年10月の第1例目の実施をはじめ、5月27日までに7例実施）。

### ＜本手術のポイント＞

本手術の特徴は非常に大きな前立腺にも対応可能なこと、尿道を経由して行う内視鏡手術と比べて術後の尿漏れや尿道が狭くなることが少ないとされていることなどがあります。

### ＜背景＞

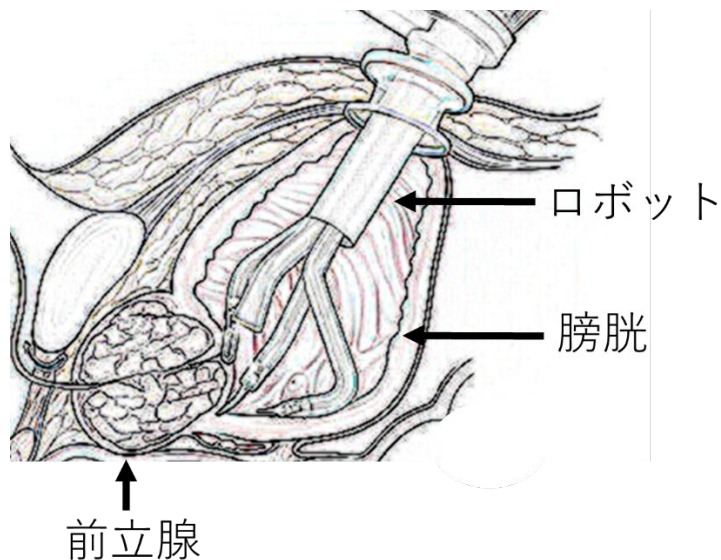
前立腺肥大症（BPH）は前立腺が腫大することにより尿道の閉塞を起し、尿勢低下や頻尿などの様々な下部尿路症状の原因となり生活の質を低下させる疾患ですが、重症化すると腎不全なども引き起こします。BPHは有病率が非常に高く全国で年間約20,000件もの手術がされています。元来BPHに対する手術は経尿道的前立腺切除術（TURP）か前立腺が著明に肥大した症例に対しては開腹手術が標準治療でしたがどちらも出血量が多いなど欠点も多く、現在は様々な手術術式が登場しています。当院は全国的にも珍しく多種多様なBPH手術が施行可能な施設で、現在では主にレーザー蒸散術（PVP）、前立腺吊り上げ術（PUL）、前立腺水蒸気治療（WAVE）、そしてロボット支援手術（RASP）を行っています。

### ＜本手術の具体的な内容＞

我々はRASPの中でもダヴィンチSPという手術支援ロボットを用いて行う手術を行っています。単孔式といって下腹部に1カ所穴をあけて膀胱内にポートを造設して膀胱側から前立腺の腺腫を核出します。PVPでは難しい100-200gを越えるような大きな前立腺にも対応可能です。手術時間は3時間程度で、従来行われていた開腹手術よりも出血量が少ないことが一番の利点です。またPVPなどの尿道を経由する内視鏡手術と異なり、術後の腹圧性尿失禁や尿道狭窄が少ないとも言われています。ただ、日本では現時点では保険適用でないため自費での治療となります（諸外国では既に認められた治療法です）。

### ＜まとめ＞

前立腺肥大症は多種多様で患者さん一人一人にもっとも適した治療が求められます。今回紹介したロボット支援手術が最適な患者さんに本手術が提供できれば幸いです。



## <本件に関するお問い合わせ先>

所属・職・氏名：泌尿器科学講座・講師・京田有樹  
TEL：011-611-2111(内線 34720)  
FAX：011-612-2709  
E-メール：kyohday@sapmed.ac.jp